

内分泌専門医の開業医アンケート

2018/4/26 日本内分泌学会学術集会 シンポジウム9 内分泌専門医の未来
土井内科胃腸科医院 糖尿病・内分泌内科 土井 賢

対象：インターネット上で検索しえた内分泌専門医の先生が常勤されている内科・小児科・産婦人科の診療所373施設

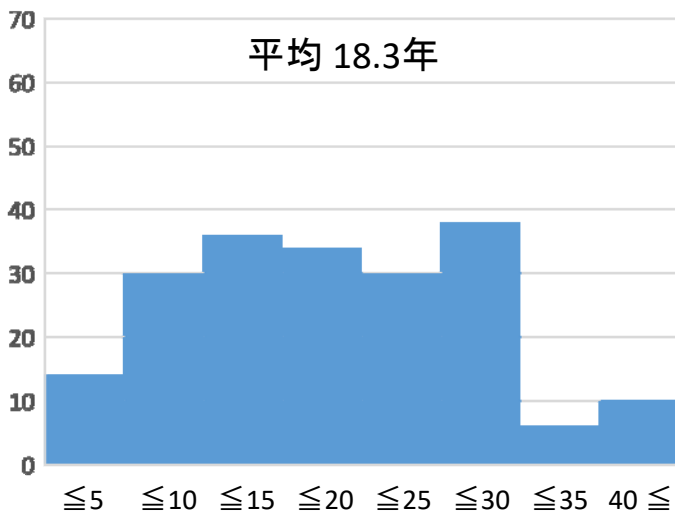
方法：郵送による記名式アンケート

373名中201名より回答(回答率 53.9%)
(内科177名、小児科22名、婦人科2名)
男性 165名 女性 36名

内科専門医の開業医アンケート

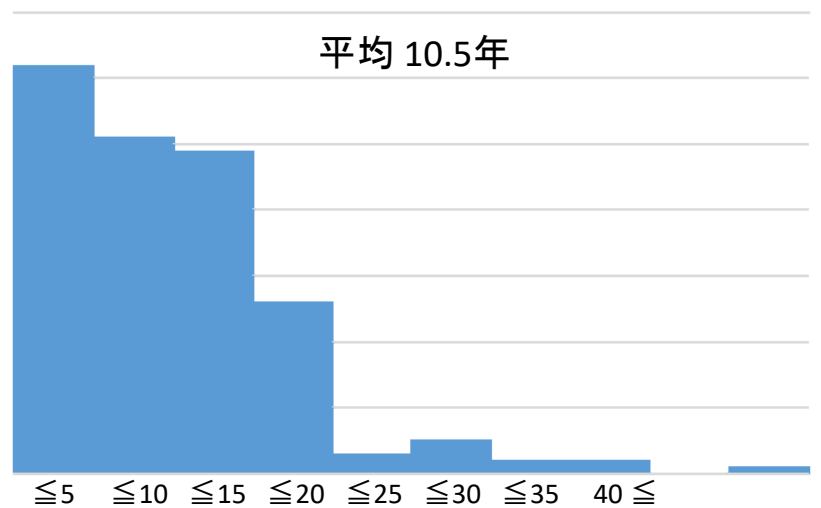
専門医取得後年数

平均 18.3年

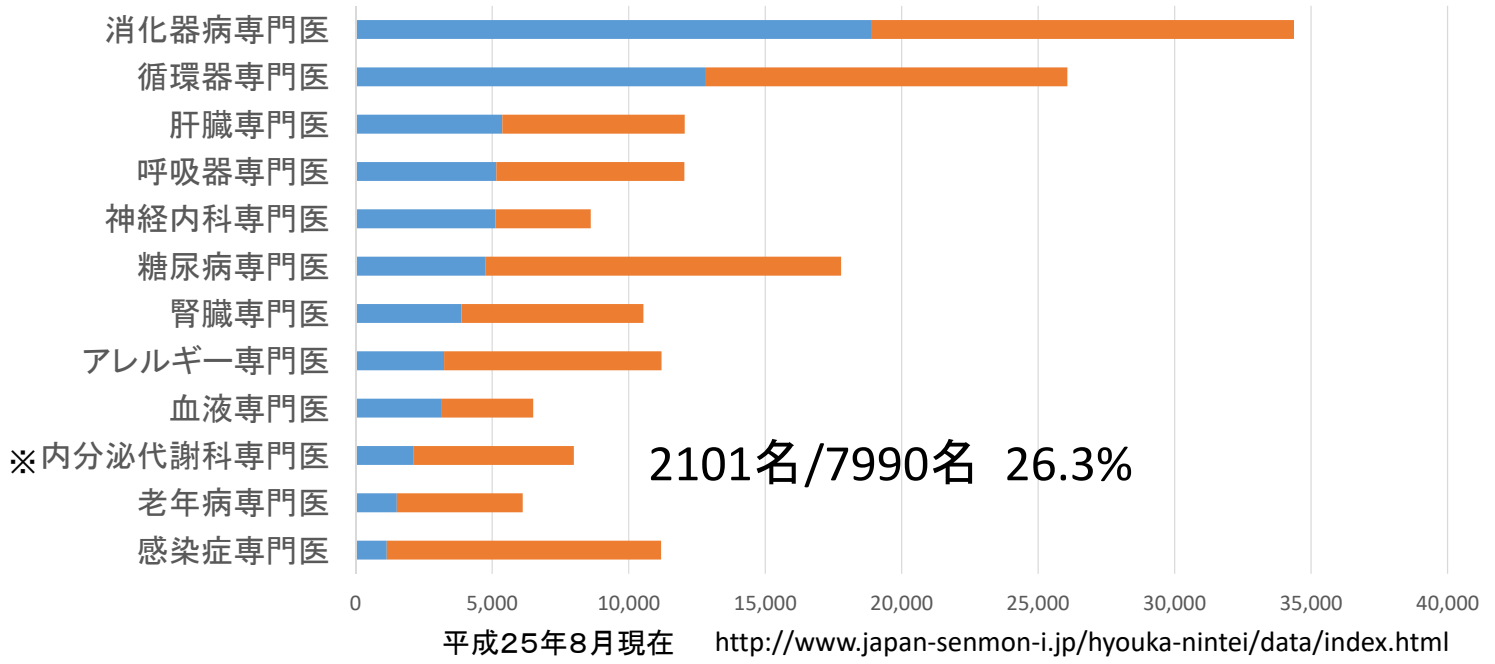


開業年数

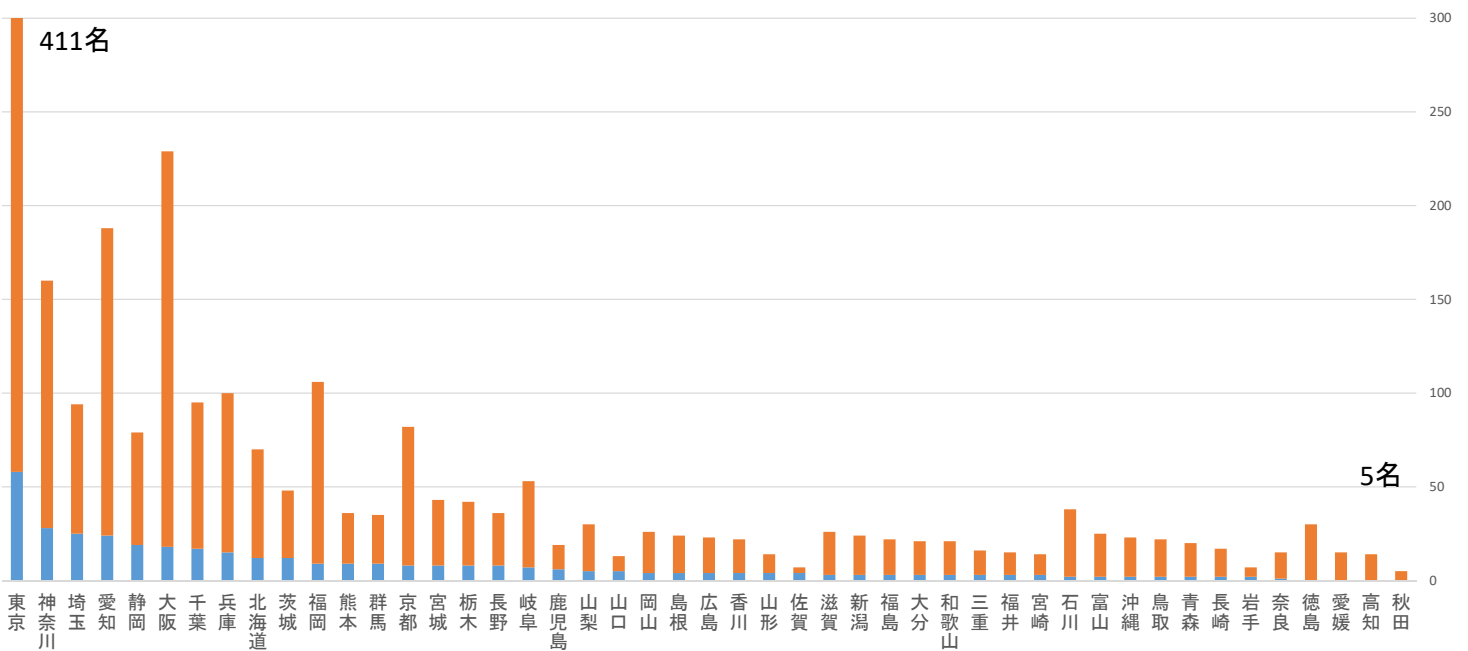
平均 10.5年



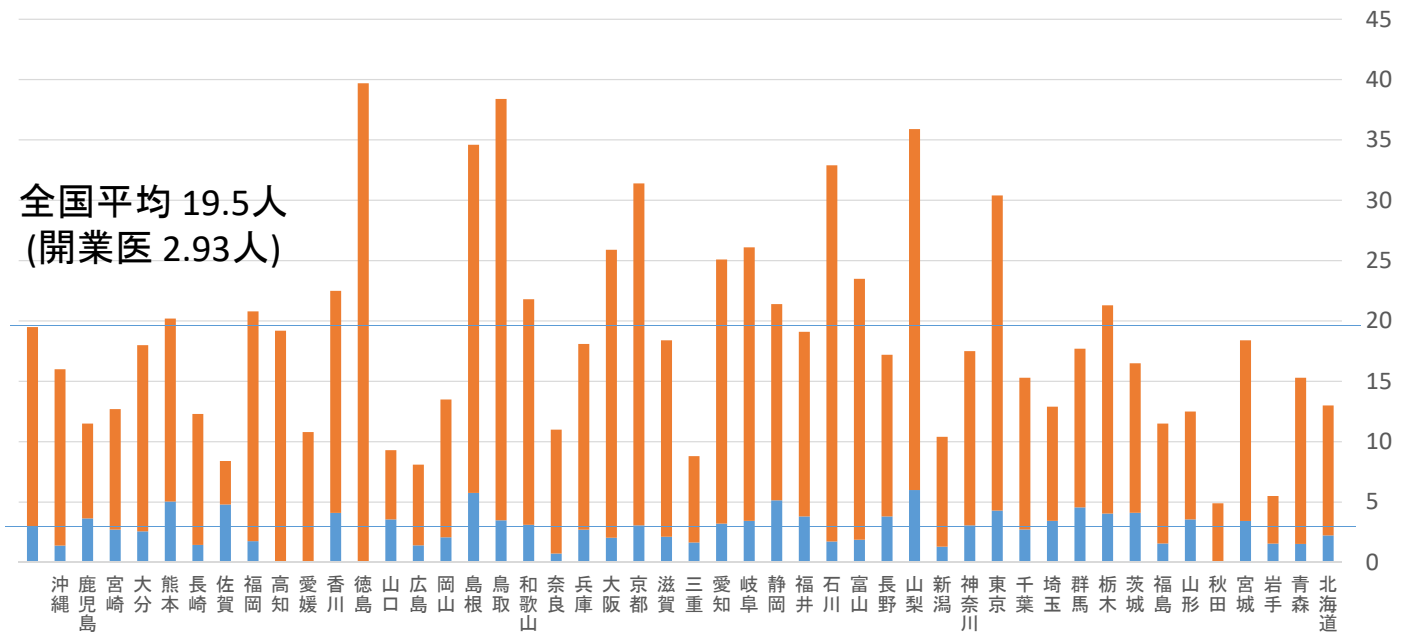
内科系学会の会員数・専門医数



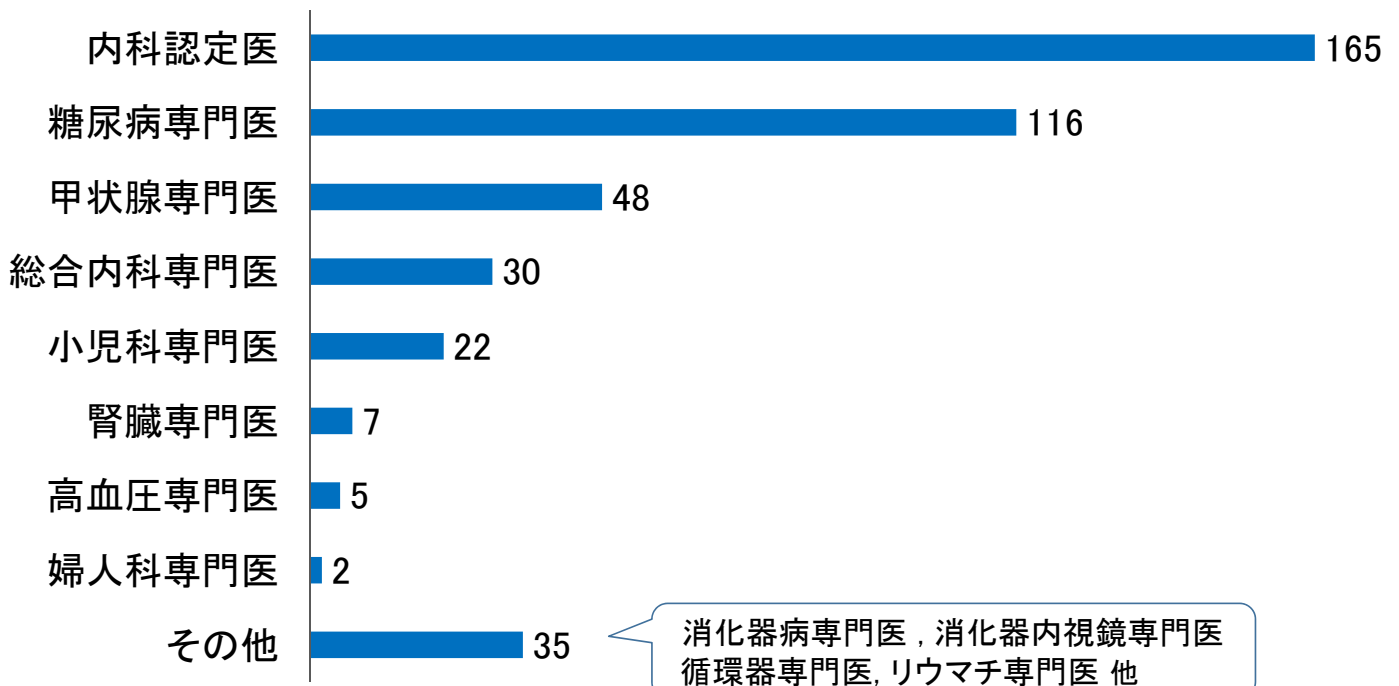
各都道府県ごとの内分泌専門医



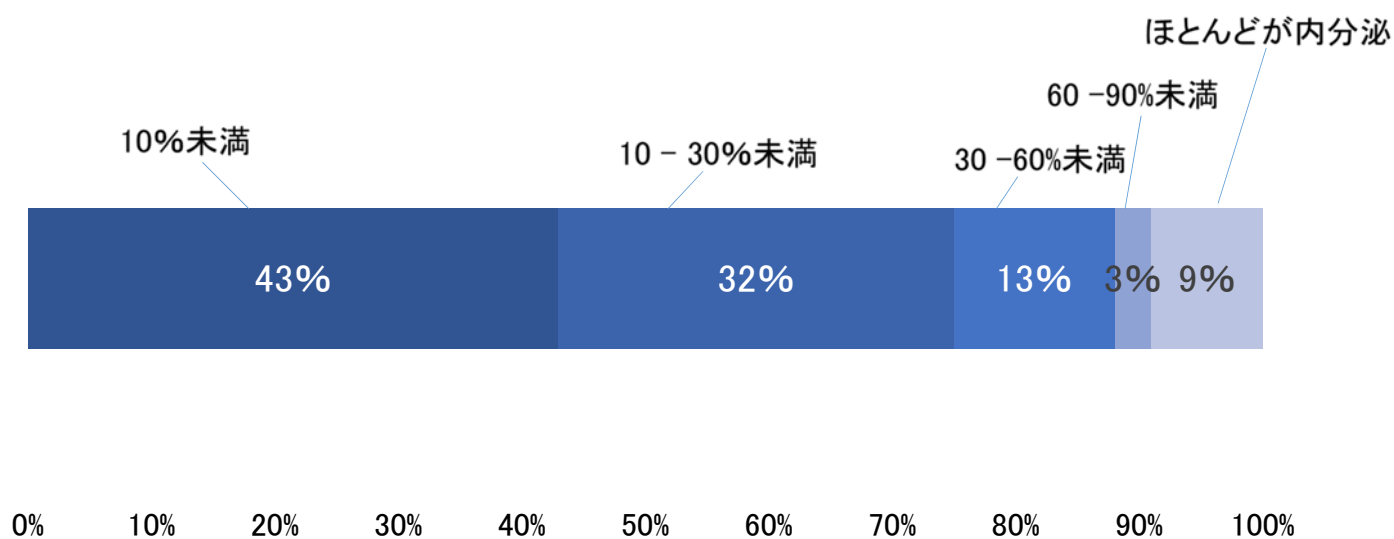
各都道府県ごとの専門医の割合 (人口100万人あたり)



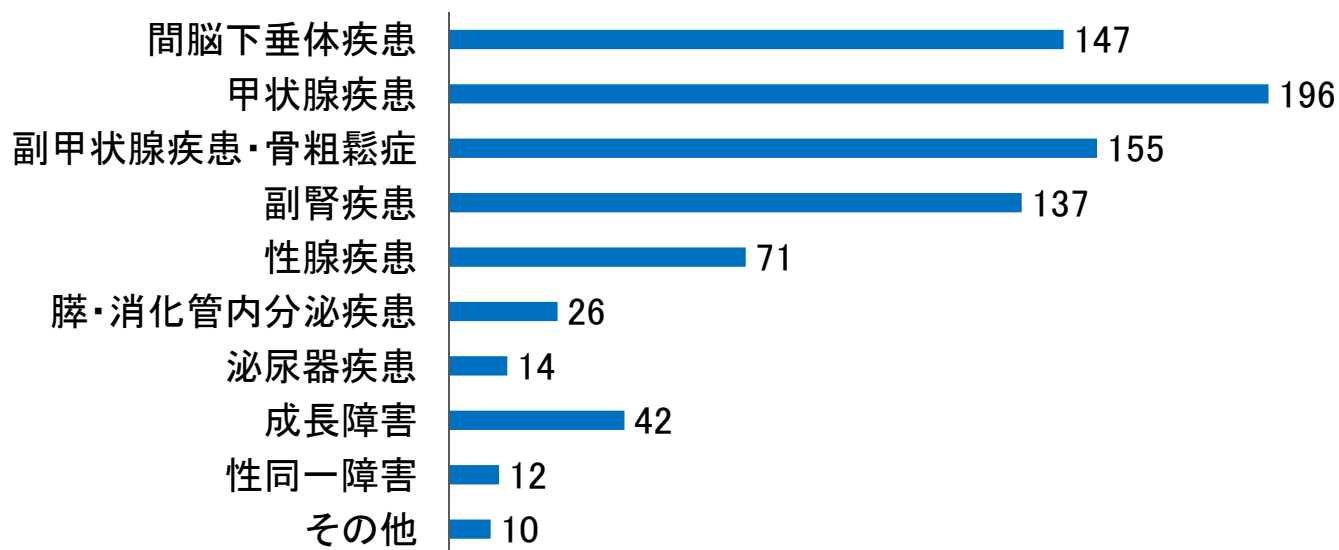
他に取得している専門医資格 (複数回答)



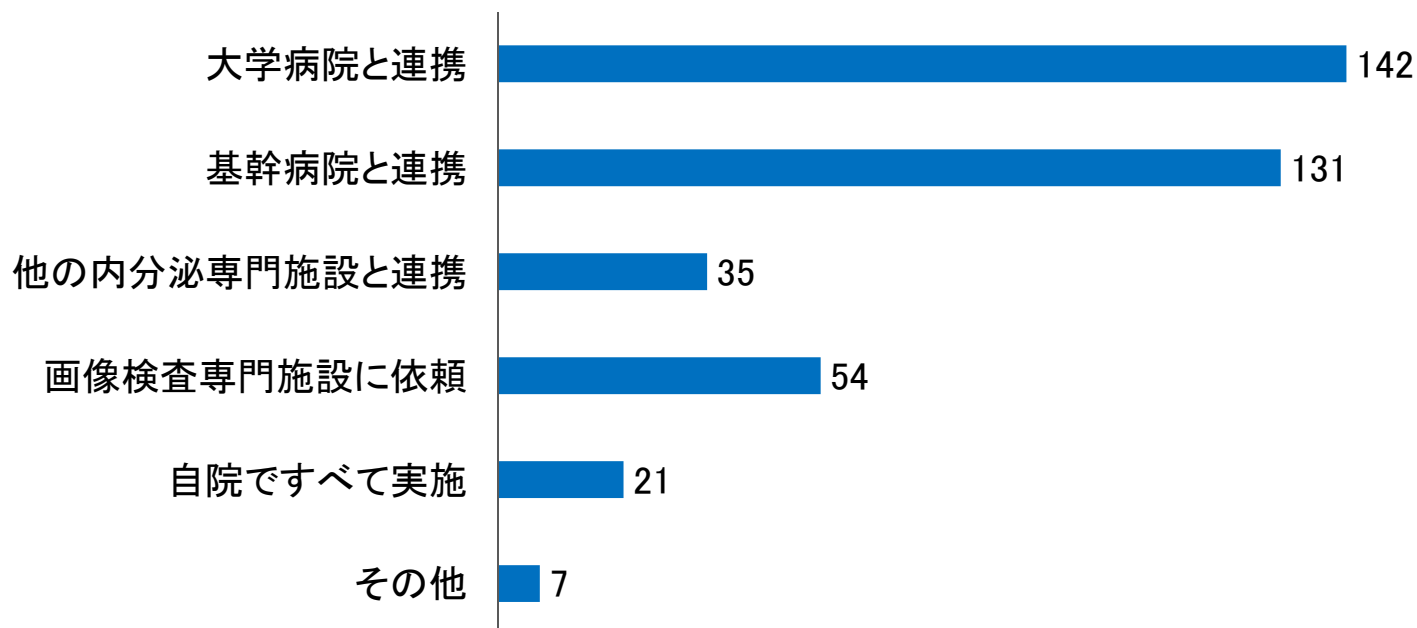
診療患者に占める内分泌疾患の割合



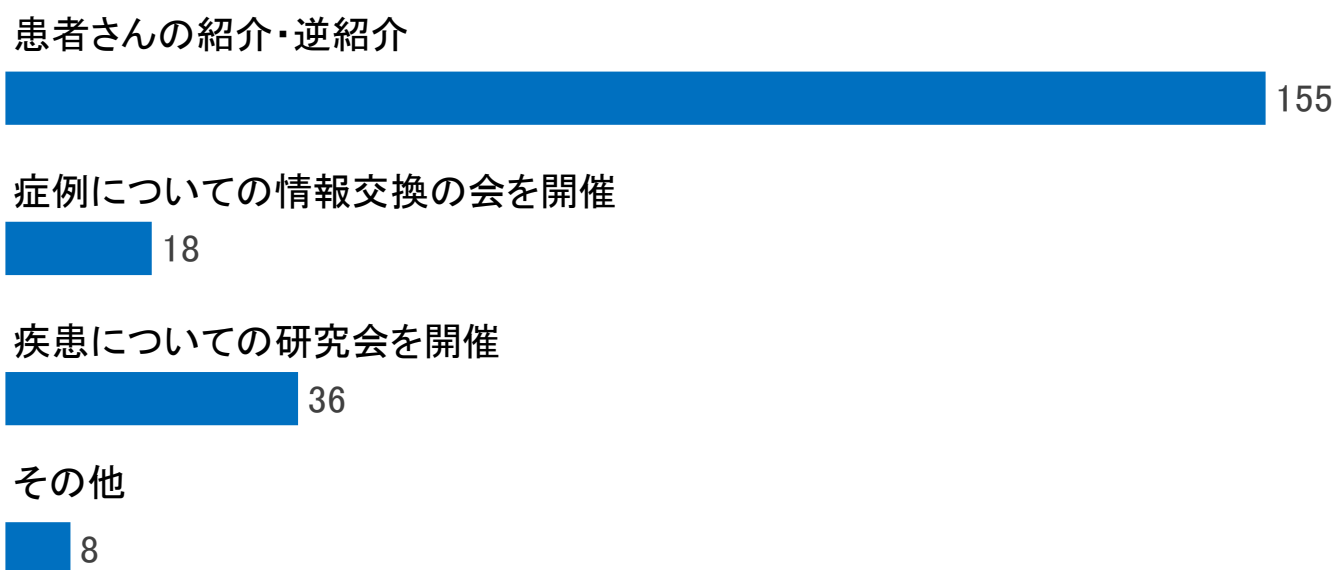
診療している内分泌疾患（複数回答）



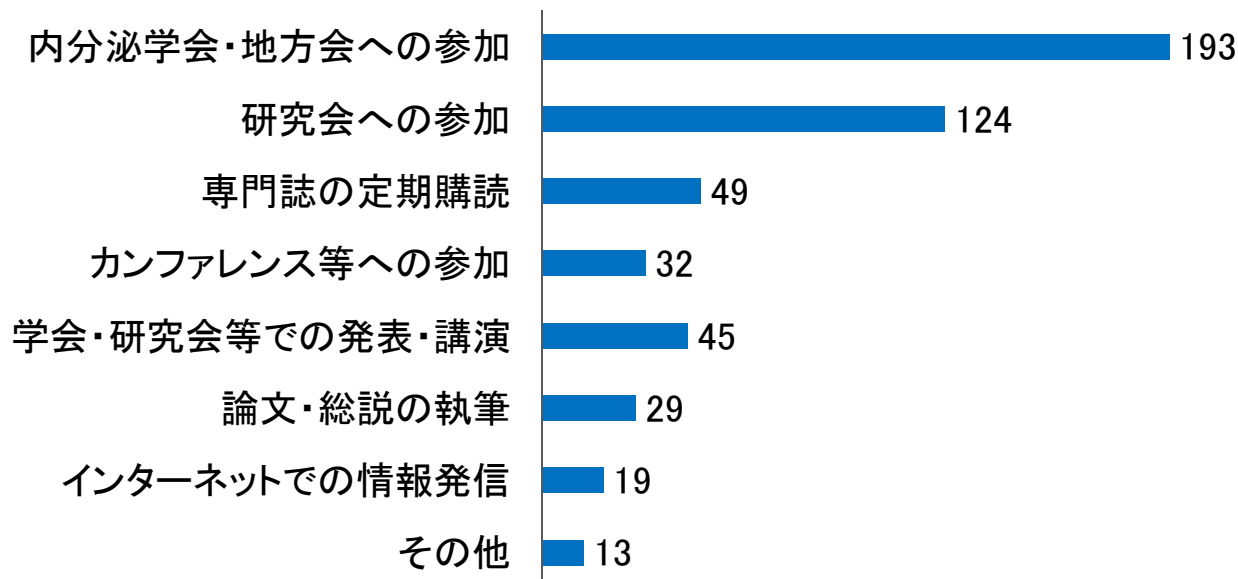
内分泌疾患の診断・検査（複数回答）



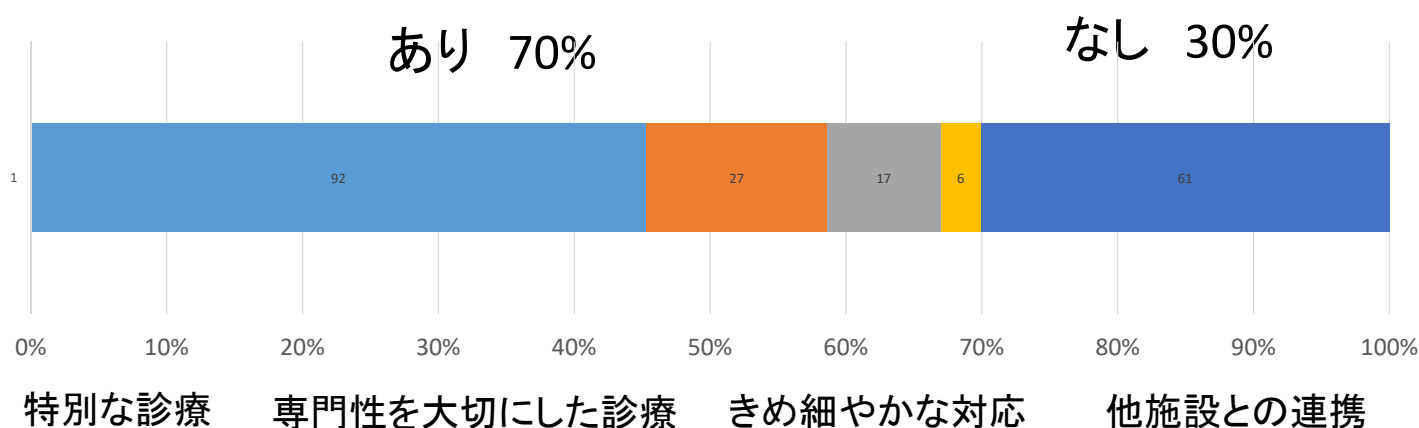
非専門の先生方との連携（複数回答）



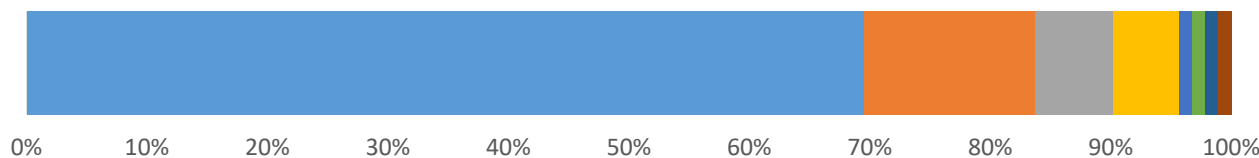
専門知識を維持するためにしていること（複数回答）



内分泌を専門とされる先生のご施設 ならではのこと、特色を教えてください



施設ならではの特徴：特別な診療



甲状腺を中心に診療 (64)

甲状腺の専門施設である	13
甲状腺を中心に診療している	2
糖尿病と甲状腺を主に診療している	2
甲状腺エコーと採血検査を行っている	8
甲状腺エコーを行っている	6
甲状腺エコーとFNABを行っている	15
院内検査で甲状腺ホルモンを測定している	13
婦人科と連携して妊娠甲状腺疾患の診療	5

負荷試験を行っている (13)

2次性高血圧 (6)

成長障害・性腺機能低下症 (5)

Ca代謝異常・骨粗鬆症 (1)

動脈硬化 (1) 不妊 (1) 透析 (1)

施設ならではの特徴 専門性を大切にした診療

専門性を大切にした診療を行っている 27施設

- 心療内科や糖尿病の中に内分泌疾患を見つけている
- 潜在性の内分泌疾患を見つけるようにしている
- 内分泌疾患を疑い検査を行っている
- 専門性と一般性の両立を図っている
- 広域・遠方の患者さんを診療してる
- 非専門施設からの紹介症例を多数診療している

他施設と連携している 6施設

- 大学で定期的に診療している
- 英国の内分泌・糖尿病センターと交流している

施設ならではの特徴 きめ細やかな診療

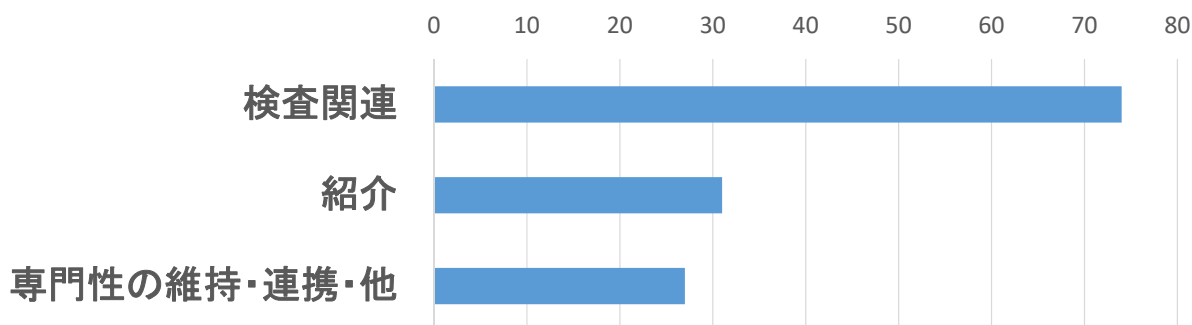
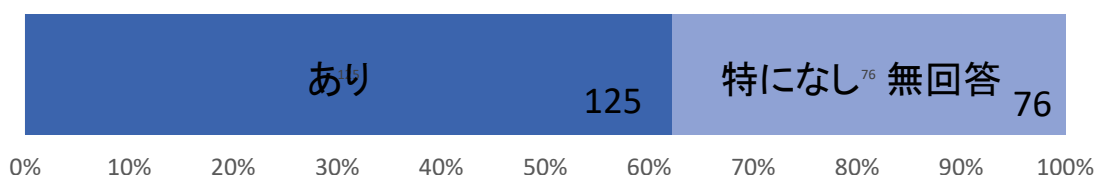
(17施設)

身軽に対応している
待ち時間が少なく早めに対応している
すみやかな対応が可能
仕事や学校に支障なく通院しやすい

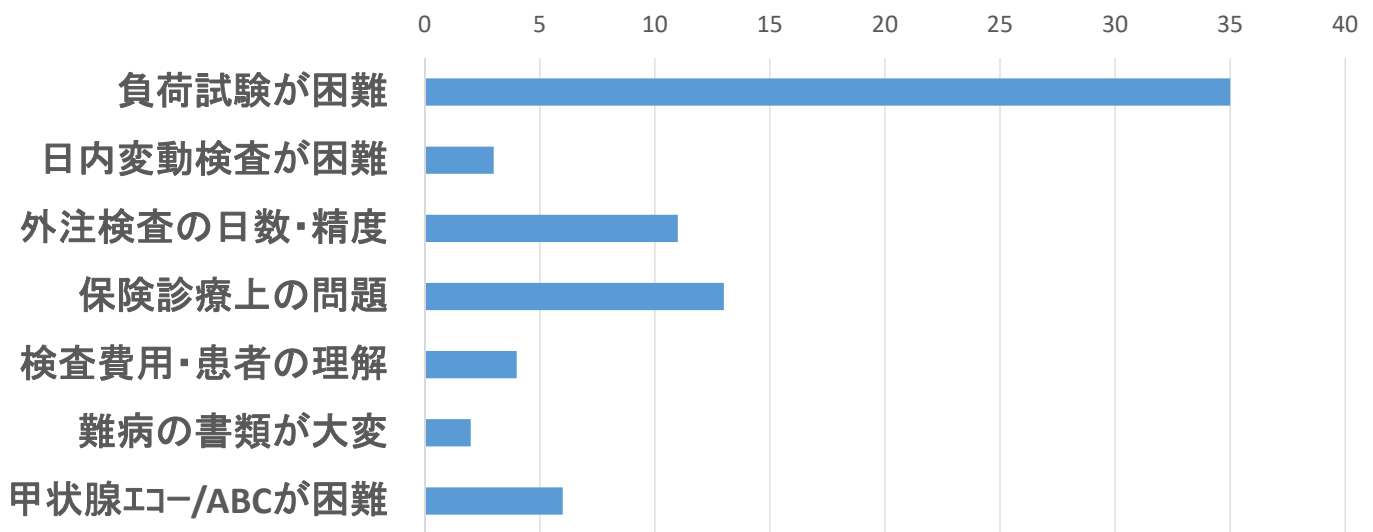
丁寧に問診している
ゆっくりと時間をかけた丁寧な診療を行っている

ライフサイクルに応じた診療・カウンセリングを行っている
女性患者さんが多く様々な相談に応じている
専門外のことにもなるべく対応している
小児から成人まで一貫して診療しておりトランジションの問題がない

内分泌疾患を診療する上で困っておられる ことがありましたら教えてください



診療上の課題：検査関連



クリニックで負荷試験を行う上での問題点

医師・スタッフ不足 (6)

医師1名で負荷テストができない・人手が足りない

スペースが狭い (4)

処置室が埋まってしまう

安全性 (5)

検査後の体調不良が心配

試験薬のコストが高い (5)

薬品が1本単位で入手できない・採算があわない

患者さんの理解が得られにくい (2)

診療上の課題：紹介

基幹病院に内分泌専門医がいない・少ない (8)

医師の移動に伴って、疾患の受け入れ、連携が取れなくなる事がある (4)

緊急症で入院が必要な際に受け入れ可能な病院が限定されている (1) 画像検査などで時間がかかる(2)

紹介先が大学病院に限られてしまっている (3)

大学病院といえども糖尿病に力を入れている所が多く、どこに紹介するか大変

連携先が遠い。地理的に遠隔から患者が受診を敬遠してしまうことがある (2)

患者さんが転居される場合など、転居先(紹介先)の情報が乏しく困る。結果、大学病院などの大病院への紹介が多くなる

診療上の課題：紹介

多くの専門施設があるが、内分泌の中でもどの分野が特に専門であるかについての情報が少ない

逆紹介しにくいので、継続して診ている。

東京なので、紹介した患者はまず戻ってこない。

成長が止まりかけてから紹介・あるいは自発的に来る患者が多い

実地以下の先生方への疾患や治療の啓蒙・周知ができていないため、かなり入り組んだ病態になった状態での受診が多い

診療上の課題

小児と成人の境界くらいの甲状腺疾患は自院でみるか迷う

どこまで院内で検査をするか決めかねる

下垂体・副腎疾患は診断のために基幹病院へお願いすることが多い

緊急対応が必要となりうる小児内分泌疾患(副腎疾患、1型糖尿病など)は受けていない

外来でできる簡易な負荷試験マニュアルがあると良い

まずは「クリニックレベルでここまで」のような指針があると良い

診療上の課題

新たな症例経験が少ない

多くの内分泌疾患(甲状腺除く)患者は基幹、大学病院でフォローされているので、診療所でまれな内分泌疾患をフォローする機会が少ない

珍しい下垂体・副腎疾患などを見つけたいがほとんど見つからない

内分泌疾患症例の絶対数が少なく、内分泌・代謝内科のみでは経営困難

純粋な内分泌疾患は多くないため、それ中心の診療はできない

糖尿病診療に時間がとられて、内分泌まで手がまわらない

診療上の課題

新しい知識について学会雑誌などでは理解できないことが多い

カンファレンスや周りの専門医と検討できたのが、クリニック単位では容易でない
地域のネットワークが特にない

地域に内分泌専門医がほとんどないため、症例を共有したり、ディスカッションすることがなかなかできない

開業地域内での内分泌・開業医のネットワーク・集まりが望まれる

メーカー主催の勉強会が少ない

研究会などの機会が少なくupdateできない

多数の症例を有していても診療所のレベルであると勉強の場として認定されない

内分泌学会・専門医制度のありかたについてご意見がありましたら教えてください

あり

92

特になし 無回答 109

- ・学会開催日 参加しやすい日曜日、祝日を含めてほしい (28名)
- ・交通の便のよい大都市で開催してほしい (6名)
- ・eラーニングの利用など、学会出席以外の単位更新の方法を作ってほしい、また重要なレビューをネットで後日みられるようにしてほしい (7名)

- ...取得単位数が多く専門医の維持が負担(7名)で返上の予定(2名)
- ...専門医の維持について開業医に配慮してほしい (2名)
- ...新研修医制度になった場合、専門医の維持が不安(7名)
- ...症例経験を更新条件にされてしまうと更新困難となる

内分泌学会への要望

- ... 専門医の所属施設や専門を含めて学会ホームページに掲載してほしい(患者さんを紹介する時などに有効)。施設へのリンクがあるとさらに良いと思います (2名)
- ・ 地区単位で症例検討や知識のアップデートのための研究会を企画したい (3名)
- ... 内分泌疾患について一般を対象とした啓蒙活動をしてほしい
- ... 負荷試験や内分泌検査になれたコメディカルの育成、資格の授与

- ・ 診療報酬改定に注意を払ってほしい
- ・ 内分泌診療の保険審査での査定について働きかけてほしい
- ・ 糖尿病学会と同様に保険制度に組み込まれるようにしてほしい
- ・ 専門医が特定の疾患を診療したら「専門医加算」を付けるなどしてほしい
- ・ 診療報酬に結びつける制度にするか、修行や学術的努力の証とするか、サブスペシャリティなので、後者にすべきと考えます

内分泌専門医の育成について(1)

- ... "糖尿病学会に比べて閉鎖的なイメージが強く、若い先生方が近寄りにくくなっている糖尿病専門医は受験するが内分泌専門医は受験しないという後輩も増えている若い先生たちに内分泌の魅力を伝える何らかの対策が必要と思われる"
- ... 専門研修できる施設あるいは指導医が少ない。糖尿病学会に負けている
- ... 専門医研修施設が少ないこと。専門医受験資格が厳しい感があります
- ... 大学病院以外での専門医取得が困難なこと
- ... 20年間基幹病院で内分泌を目指す人を見つけることができませんでした。このままでは次世代が減ります

内分泌専門医の育成について (2)

- ... 内分専門医の育成は重要である。大学病院での研修10年、基幹病院での研修10年、最低20年は必要かもしれない。症例を診察しなくては話にならない。
- ... 糖尿病の知識経験は充分であるが内分泌疾患への知識・経験のない医師が内分泌専門医として認定されていることに危機感があります
- ... 現在糖尿病メインで行っている教室の先生方は内分泌領域の関心が少なく十分な臨床経験がないまま内分泌専門医を取得しております。もう少し内分泌領域の専門教育の充実、もしくは専門医取得の際のハードルを上げないといずれ大きな問題になるのではないかと考える最近です
- ... 全国的にみると医局により内分泌が手薄なところがいっぱいあり、人的交流(レンタル移籍的)制度を創成してがん医療で言われるような均質化を実現してほしい
- ... 本当に内分泌ができる先生が減っています。内分泌学会の専門医資格は結果としてもらうものであって目標ではありません。とった後の経験と勉強が必要です

内分泌専門医を目指している若い先生方に、ひとつお願いします。

- データを見る医師ではなく、患者を診る医師になってください
- 不定愁訴と思われている患者の中に内分泌疾患が認められることがあります。見逃さないようきちんと診断することは大切だと思います。開業医レベルでできることは限られていますが稀少価値のある資格です
- 頑張ってください
- 大学病院、基幹病院でしか経験することができない症例があると思います。ひとつひとつの症例（患者さん）を丁寧に治療されてください
- 他の専門医ももっていた方が良いかもしれない（糖尿病、腎臓、高血圧専門医など）
- 甲状腺疾患などは頻度も高く、見逃されている場合も多いです。内分泌疾患は常にその病気でないかという目で診ないと診断できない場合もあり、専門の眼で診るとそういう疾患が診断できる場合が多くなり、患者さんの治療に役立つことができます
- 全ての疾患を全体的に理解するためには、内分泌学的考え方は不可欠だと思います。他の専門を選ぶにしても内分泌的考え方（臓器関連、身体の統合性など）は身につけておくことが重要だと思いますし、他の専門職にも伝えて欲しいと思います（余りにも臓器別、疾患別になりすぎていると思います）
- 学会、研究活動を頑張っていたきたい
- 派手な分野ではありませんが、やりがいがあると思います
- 内分泌は奥が深く、とても面白い分野です
- マニアックな世界ですが、だからこそ面白味があります
- 専門性の枠にとどまらず、資本主義社会の中でなされている医療構造についても関心を持ちながら、医療以外の分野にも関心も持つことで、教育の中で教え込まれた、自分自身の考えにも立ち止まって、疑いを持ちながら、患者と社会と医療自身が自立性のある方向を目指していければ嬉しいです
- 内分泌疾患は非専門医の診断で見逃されていることも多いので、より多くの患者さんを診断・治療に繋げていけるよう、一緒に頑張りましょう
- 女性医師はこの分野で輝けると確信しています。患者さんの年齢、性、全身に疾患が及ぶことなど、対象となる診断に至る経過をサスペンスのように楽しみながら患者さんに寄り添うことができます
- 絶対数が少ないこともあり、必要な専門科です
- 内分泌専門医の前に内科医であれ（かぜなどで受診、健診で受診した患者の中にも内分泌疾患はいます）
- 若い間に多くの症例経験を積むことが最も大切です

- 発達、成長から老化までいわゆる総合的な知識が必要な部分と、ニッチな部分を併せ持つ、かつ臓器の隔たりがないので、全身を診るための入り口として最適の分野だと思います。まだまだ新しい発見も望める分野でもありますので研究にも向いています。若い先生をお待ちしています。
- 地方での開業（医院）では、内分泌専門医の知識・経験を活かした診療・経営をすることはかなり困難です。特別の事情（開業医の後継者など）がなければ、大学病院・地方の基幹病院などで「勤務医」を続けることをお勧めします
- 幅広い専門的なスキルを身につけ、常に Up Date していくことが大事です
- 内分泌の専門医は、糖尿病、高血圧、腎臓、循環器、消化器、骨粗鬆症とつながる内科の王道であると思えたらすばらしい
- 病院勤務では必ず必要な存在です。患者さんは少ないですが、見つけ出して診断して治療してあげてください
- 内分泌専門医は糖尿病専門医と違って、一般の方には聞き覚えがなく認知度も低いと思います
- 好きだから専攻するのではないですか
- 内分泌領域が先細りになってきているので、志をもって取り組んでほしいです
- 症例数が他領域の疾患と比べ少ないものが多いため、症例数が豊富で内分泌疾患診断の経験豊富なスタッフのいる病院・医局への研修をお勧めします
- 日本で男子性腺機能低下症を専門とする内分泌専門医が無く、遠方から来る患者さんを紹介する医療機関が少なく困る時がある
- 全身の診れる専門医になってください
- 私自身が未熟なので、お伝えできることは限られていますが、一般内科をしていると、内分泌、代謝を専門としていると、この科の「守備範囲の広さ」が大変役に立ちます
- 専門性が高く、学問としてレベルが高い。まだ分かっていないことが沢山あり、研究の余地が大きい
- 難しい分野ですが楽しみましょう
- 内分泌疾患は自分から探しにいつて見つける病気です。怪しいと思ったら積極的に検査してください
- 内分泌疾患の診断には知識と論理的な考えさえあれば、特別な設備がなくても可能です。そこに楽しみがあります
- 沢山の症例を経験した方がいいと思います
- （基幹病院レベルではない）地域の一次医療レベルでは、まだまだ内分泌疾患が埋もれており、メジャーなサブスペシャリティに劣らない活躍の場があると考えます
- 内分泌の見方は内科の王道と思います
- 適切な指導医のもと、多数の症例を診てください
- 内分泌疾患は治らないまでも、コントロールできる疾患が多くあります。症状によって

は、QOL、今後の人生にも大きく影響するので、早期発見・診断が何より重要です

- 内分泌といった狭い枠にとらわれず、患者全体をみてください。内分泌専門の患者は10%にも満たず、他の疾患が大多数です。(心臓・消化器・生活習慣病など)しかし、内分泌が積極的に影響しているのは間違いないので基本を押さえておくのは必要です
- 内分泌はとても面白いです。これからもどんどん新しい発見があり、新しい医療？が見つかると思います
- (若い人向けではないが) 糖尿病と比べて学会にあまり活気がない気がします。内科専門医制度のゴタゴタで内科にすすむ人が減るような気がする。糖尿病学会と合併して内分泌代謝学会になった方がよいように思います(若い人のため)
- 開業しても内分泌領域の知識は役に立ちますが、保険診療の範囲でコストを意識してやることも大切かと思います
- 不定愁訴や common disease の中に内分泌疾患が潜んでいることがしばしばあり、それを発見治療することが大変有意義
- 研究をしてほしい
- 日常診療で五感と経験・知識をフルに活用できる興味深い領域です
- 若い時に研修をしっかりとすることが大切だと思います
- 内分泌専門だけではやっていけない。糖尿病を併設すべきです
- 自分も糖尿病・内分泌の両方で開業しましたが、思ったより甲状腺を中心とした内分泌の方の受診が多いです。地域性もあると思いますが、内分泌専門医は明らかに不足していると思いますので目指す方が増えれば幸いです
- 症例一例一例を大切に勉強してください
- 基幹領域(内科・外科など)をある程度経験した後に大学病院や専門施設など、内分泌疾患の症例の多いところで多数の症例を実際に経験してください
- 糖尿病、高脂血症、甲状腺疾患など頻度の多い病気ですが、適切に診療できる専門医は多くなく、活躍の場は多いと思います
- 内分泌疾患は頻度の高い疾病の一つです。基礎研究だけではなく、臨床にも習熟して欲しい。開業してもやり甲斐のある分野です
- 内分泌学は内科学の中でも幅広い疾患・領域に応用がきく学問ですので、是非専門医取得して活躍してください
- 学問として純粋に面白いです。一見ニッチな側面もありますが、一生涯楽しんでやっていけるとと思います
- 一定数の内分泌疾患の患者様はいらっしゃるので専門医は必要です。私は内分泌が好きなので専門にしましたので、若い先生には好きな方々は続けてください。くらいしか言えませんが、大変興味深い分野です
- 生理活性物質が全身をターゲットに向かい、そこでの調節を各々に違った形で受容して作用する仕組みがとても面白いと思います

- 内分泌の視点を学ぶと、同じ糖尿病、高血圧であっても見方が全く変わってきます。糖尿病専門医だけでなく、内分泌専門医も是非取得してください
- 是非専門医を多くの方にとっていただきたいです
- 内分泌疾患は診断と治療が確立してやりがいがありますので、若い先生方に興味をもっていただけたらと思います
- 疑うことが診断、治療につながるやりがいのある科だと思います
- 糖尿病ほど患者数は多くないですが、甲状腺は特に穿刺できる医者が少なく（私の県のおよそ 1/4 にあたる地域の甲状腺疾患を 1.5 人ほどの専門医で診ている現状です）やりがいはあると思います。甲状腺外来をやっていなかったら、クリニック経営は相当厳しくなっていたと思います
- 私自身「フィードバック機構」に魅せられて内分泌を専攻しました。こんな面白い分野はありません（研究も臨床も）
- 内分泌は楽しい学問です
- 私は糖尿病治療を目的に内分泌・代謝研究室に入局し、あまり興味なく内分泌の診療にも携わってきましたが、症例の多い甲状腺疾患は女性の患者さんが多く、女性ならではの症状も多く、また妊娠・出産も関係することから甲状腺含めて、内分泌専門医に女性になることは意義があったように思っています。また最近の内分泌学会講演を聴くと、内分泌はとても興味深い分野であると感じています
- 甲状腺疾患を除くと比較的稀な病気が多く、各疾患ごとに多様性があり、教科書通りに診断できないことも多い。一症例毎の経験を大切に勉強してください
- 臨床・研究とやりがいがあります
- 「広く知り、深くきわめよ、そして他に及ぼせ」
- 意外と身近な病気も多く、一般外来でもある程度専門性を保つことができると思います
- 甲状腺が多いですが、他の下垂体、副腎の勉強も今役立っています
- 消化器疾患と違い、じっくり診ていく分野です。女性にはもってこいの科だと思います
- 内科学の王道である内分泌を目指さずして内科医を語るなかれ
- 良き指導医に巡り合えるよう祈念しております
- 「内分泌学は面白い」そして世界を目指して欲しい
- 不定愁訴の方が来ても自信をもって「内科的に異常なし」と言えます。ほとんどの開業医の先生方が診療を避けられるので、患者さんから非常に感謝されています
- バセドウ病に良い薬の開発を研究して欲しい
- 専門医は地方に少なく、多くの患者さんがいるので、なるべく都会ではなく地方病院に就職して欲しい
- 内分泌を理解することは全身を理解する最短であり、知っているか、知らないかで診断が決まる。大切な分野です

- 内分泌疾患は症状が多岐に渡るので、他院で診断のつかない疾患の診断をつけられる事があり、面白い分野です
- 内分泌的視野で患者さんを診ていくことは極めて貴重です。内分泌の知識を増やすために症例発表、臨床基礎研究の研鑽を多く積んで欲しいと思います。内分泌学を発展させるためにも頑張ってください
- クッシング症候群や先端巨大症合併のDMが2型DMとして治療されているケースがあります
- 手技が少ない分野のため、エコーの習得が必須だと思います
- 内分泌学は多岐にわたり、学問として面白いが患者さんが少ないので、現実には糖尿病の患者さんを見るが多くなるので、糖尿病学を勉強することが必要
- まず何でも診る総合内科、ジェネラルドクターである
- 何か一つは、ある程度自信をもって診療に当たれるものを有していきたいと思います
- どのような分野でも signal transduction 的とらえ方は役に立つ。臨床的にはもっとも死から遠い内科である
- 研究と同じくらい患者さんを診なさい
- 内分泌学は全身内科学であり、実地臨床では総合内科医を目指す上で最も適した分野だと思っています
- 木をみて森を見ず的な Dr にならないようにして欲しい。専門に特化するならとことん極めて欲しい
- 内分泌は患者数はそれほど多くありませんが、専門医も少ないため活躍の場は多いです。都内で開業していますが、区内にはほとんど専門医はいません。都心部でも専門医は多数いますが、おそらく大部分は大学病院や専門病院に所有していて、開業できる専門医は非常に少ないと思います。開業医でも専門医として腕をふるう場面は非常に多く、やりがいを感じています。皆様も是非専門医として第一線で活躍してください
- 大学病院などでじっくり内分泌代謝疾患を勉強することは、非常に恵まれた環境でもあり、今後地域医療に関わる際にはとても有用です（そういう目でみないと見逃してしまうものも多いので）
- 一般診療の中でも acromegaly 様顔貌などで内分泌疾患を疑うきっかけなどもあります。内分泌専門医を目指す価値はあります。頑張ってください
- 非常に責任が重い仕事なので、無理をしない方が良いです。ライフワークバランスは病院の方が良いです（年間 3500 時間 350 日仕事となっています）
- この分野は非専門医の先生では診断・治療に苦慮する症例が多く、マニアックな分野と思いますが、逆にそれが魅力だと思います。内分泌専門医は内科の他分野の専門医に比べても少ないため、希少価値があり、診断・連携の中においても地域の先生方に頼りにされることも多いと考えます。是非プロフェッショナルを目指して頑張ってもらいたい

- 専門という窓から全身を診ていただきたい
- 診断・治療の正確さは当然ですが、疾患を抱えて人生を歩まねばならない方がほとんどですので、生活面を含めた総合的な視点をもった治療・指導を身につけて欲しい
- 研修時代に大病院でなるべく多くの症例（患者さん）に接することが重要です
- 症例をできるだけ診る。可能な限り原著は執筆
- 開業では一般の患者さんの中に内分泌疾患を見出すのも私たちのつとめです。開いた心、広い眼をもって欲しい
- 深い分野です。学んでいると面白いです
- 内分泌・代謝領域は多岐にわたる学問です。広く浅くでは内科専門医と変わりません。広く深い知識を身につけてください。因みに私は最近の遺伝子レベルの研究にはついていけません
- 伝統のある学会ではありますが、新専門医制度のあり方をみるとメジャーな専門医にはなり得ないとも思われます。他の専門医資格を目指す中での取得がよいかもしれません。スピリッツをもって目指して欲しい
- 症例数をこなすことよりも、個々の症例を深く考察することが大切だと思います。可能なら糖尿病と甲状腺の専門医をとった方がよいかもしれません
- 内分泌疾患は甲状腺以外稀な症例が多いのですが、かなり専門的な知識と経験が必要であり、専門性の高い分野でニーズも高いと思います
- 内分泌疾患は従来の内分泌臓器の疾患だけでなく、全身の様々な臓器の疾患や病態に関わっており、大変興味深い分野と思われしますので、是非内分泌疾患の診療や研究を目指していただきたい
- 日本と米国との内分泌専門医のあり方は違いがあると思われませんが、私の息子も東北大医学部、腎・高血圧・内分泌科で博士号を取得し、現在は日本内分泌学会、日本高血圧学会、日本内科学会専門医を取得。アメリカの大学に留学中です。今後の日本の内分泌学会のみならず、専門医制度には少し疑問があります。
- 開業の切り札、もしくは看板となり、他院との差別化に有効です
- 内分泌疾患は、一般外来に占める割合は低いですが、それだからこそ専門医の希少価値があると思います
- プライマリーケアにおいて内分泌学的知識は有用だと思います。一人でも多くの内分泌専門医が活躍することを願っています
- 大学を離れても診療を行えたら良いと思います
- 小児科内分泌専門医があり開業が楽でした。地域貢献も大きいものがあります。まさに症例の発掘
- 女性でも継続しやすい分野ですので頑張ってもらいたい
- 内分泌疾患はドラマチックなことはあまりないが、じっくりものを考えるにはよい分野であろう

- 内分泌疾患は先生が感じておられるより多数いるはず。一般検査、身体所見、画像をしっかりみて、これぞと思った例に内分泌検査（刺激試験、抑制試験、日内変動検査）を追加すれば、診断基準をほぼ満たす例をセレクトできる。福島市のように周辺人口 50 万人弱でも多数の患者がいる。当院では、下垂体・副腎・性腺などは広い福島県内各地のみならず、隣県（茨城・山形）などからも来院している
- 広い視野で診療することが大切ですが、ひとつ専門があると、広さ深さの加減がわかるようになると思います
- 診た事があるのとないのとは本当に違います。経験できる間に多くの症例に触れ、また稀な疾患についてはスタッフ同士で知識の共有をしてほしい
- 内分泌疾患は不定愁訴と言われる症状の中に隠れていたり、念頭においておかなければ診断に至るのが難しいと思う。実地以下の先生方が拾い上げてくれた偽診例を掘り下げるだけではなく、診断の入り口となるような目の付け所も必要と思う。内分泌内科医はオールラウンダーであるべきだと思うので、研鑽を積んでいただけると幸いです。また、基礎領域の先生方の業績もきちんと勉強し、幅の広い医師になっていただきたい
- 当院循環器外来に定期通院中の 60 代女性。糖尿病がやや悪化とされ小生に回されました。垂れて見えづらいですが入室後すぐ気が付く頸部の手術痕。何十年ぶりに甲状腺機能を測定。その後の経過からは、原発性甲状腺機能低下症が重い脂肪肝の背景にあったと思われる。もちろん T4 補償も開始。こうした症例は毎週のようにいます。将来の活躍の場は広いと考えてください。
- マイナーな科ですが必要な分野と思います。頑張ってください
- 内分泌疾患は、視診をはじめとして患者さんのファーストタッチが重要で、臨床の醍醐味のある分野です。常に疑うことを忘れずに
- 内分泌疾患の経過は長期に亘るので、その場しのぎではなく、長期に患者さんの健康を守る覚悟が必要です
- 奥の深い分野で、日々の勉強が大切だと思います
- 広い視野を持ちながら、自分の面白いと思う分野、心わくわくする分野に突き進んで下さい
- 内科医として、開業してみると、内分泌学を専門として持っている、多くの患者さんの訴えを内分泌学的にとらえて、適切な検査や治療ができています。内科医としては、必須ではないかと思うくらいです。ぜひ、内分泌学の面白さを、実感してみてください！

お名前 _____ ご施設 _____

メールアドレス _____

1. 内分泌専門医を取得されてから、何年ですか？ 年
2. ご開業されてから、何年ですか？ 年
3. 他に専門医資格をお持ちでしたら教えてください
内科認定医 () 小児科専門医 () 婦人科専門医 ()
甲状腺専門医 () 糖尿病専門医 () 腎臓専門医 () 高血圧専門医 ()
その他 ()
4. 先生の診察されている患者さんに占める内分泌疾患の割合はどの程度ですか？
() 10%未満 () 10-30%未満 () 30-60%未満 () 60-90%未満
() ほとんどが内分泌疾患
5. 先生が現在ご覧になっている内分泌疾患を教えてください（複数回答）
間脳下垂体疾患 ()、甲状腺疾患 ()、副甲状腺疾患・骨粗鬆症 ()
副腎疾患 ()、性腺疾患 ()、膵・消化管内分泌疾患 ()
泌尿器疾患 () 成長障害 () 性同一障害 ()
その他 ()
6. 内分泌疾患の診断・検査については（複数回答）
() 大学病院と連携している () 基幹病院と連携している
() 他の内分泌専門施設と連携している () 画像検査専門施設に依頼している
() 自院ですべて行っている () その他 ()
7. 非専門の先生方との連携についておしえてください（複数回答）
() 患者さんの紹介・逆紹介を行っている
() 症例についての情報交換の会を開催している
() 研究会など、疾患についての情報交換の会を開催している
() その他（具体的に教えてください）

)

内分泌専門医の開業医アンケート 2/2

8. 専門医としての知識を維持するためになさっていることを教えてください（複数回答）

- 内分泌学会・地方会への参加
- 研究会への参加 ()
- 専門誌の定期購読 (誌名:)
- 専門施設の行事（カンファレンスなど）への参加 ()
- 学会・研究会等での発表・講演
- 論文・総説の執筆
- インターネットでの情報発信
- その他 (具体的に教えてください:)

内分泌を専門とされる先生のご施設ならではのこと、特色を教えてください

内分泌疾患を診療する上で困っておられることがありましたら教えてください

内分泌学会・専門医制度のありかたについてご意見がありましたら教えてください

内分泌専門医を目指している若い先生方に、ひとことお願いします。

以上です。ありがとうございました